

放射線群書類従（第3回）

放射線安全取扱部会広報専門委員会

1. はじめに

東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所の事故をきっかけに、放射線に関する情報は供給過剰状態を呈している。一方、市民レベルでは放射線のことをもっと分かりやすく教えて欲しいという要望が多く、十分な情報が理解促進に繋がっていない面を否定できない。情報リテラシーという言葉が定着し、情報を使いこなすだけでなく、適切に判断する能力が求められているが、インターネットなどにより情報入手が容易に行える時代にあっては、それを利用して人々をミスリードすることも可能になり、情報提供側のモラルも問われそうだ。また、速報性と正確性は相反するところもあるので、原子力事故直後に出回った情報で今になってみると明らかに誤報だったというものも少なくない。特に、信頼性が高いといわれるメディアや書籍を通じて広まった情報は人々に受け入れられやすく、その影響も大きい。

放射線群書類従という企画は、取り上げる書籍を論評しようというものではないし、先入観を与えるためのものでもない。むしろ、個人が多数の書籍を読破することは困難なので情報提供に資することを目的とした。一般的に専門家が読まなさそうなエッセイや原子力に反対の立場を明確にしている書籍も取り上げているので、気になった書籍はご自分の目で確かめてい

ただきたいと思う。

2. 評価方法及び寸評

主任者がどのような目的で書籍を探しているかの視点に立って、以下の5項目について評価する。

- ① 専門家向け：放射線取扱主任者等の専門知識を持った方々に向いている内容
- ② 一般向け：一般の方々が読んでも理解可能な内容
- ③ 科学的：内容に科学的な裏付けがある
- ④ 放射線影響：放射線の人体影響についての話題がある
- ⑤ 教育訓練：放射線業務従事者の教育訓練資料として使用可能な内容

評価は4段階で示した。なお、評価自体は広報専門委員の主観である。

◎：非常に多い、とても向いている

○：多い、向いている

△：ある、多少触れている

—：ない、評価対象外

企画の趣旨を踏まえて忌憚無く意見を述べさせていただくことをご容赦いただきたい。また、書籍の内容全体が分かるように、2~3行の寸評を記載する。こちらも評価と同様に専門委員の主観である。

「放射線を科学的に理解する」 著者：鳥居寛之 丸善出版 2012年10月10日初版

A5判・256頁・2,625円（税込）

対象	① 専門家向け	② 一般向け	③ 科学的	④ 放射線影響	⑤ 教育訓練
評価	○	◎	◎	◎	◎

寸評：副題に「基礎からわかる東大教養の講義」とあるように、福島第一原発事故後に東京大学教養部で立ち上げられた講義をベースとして組まれたもの。粒子線物理学，環境分析化学，生命環境応答学の研究者が執筆し，放射線の基礎と測定，影響などについて，一般の人が「知りたいこと」がコンパクトにまとめられた良書。(M.M.)

「放射線物語」 著者：衣笠達也 医療科学社 2000年8月25日初版

B6判・148頁・756円（税込）

対象	① 専門家向け	② 一般向け	③ 科学的	④ 放射線影響	⑤ 教育訓練
評価	◎	○	◎	◎	○

寸評：放射線の歴史について詳しい。特に，利用とそれによりもたらされた事故については詳細である。放射線防護体系がどのように確立されてきたかについては主任者にとって非常に勉強になる。(Y.Y.)

「日本の疫学（放射線の健康影響研究の歴史と教訓）」 著者：重松逸造 医療科学社 2012年7月31日初版

新書判・181頁・1,260円（税込）

対象	① 専門家向け	② 一般向け	③ 科学的	④ 放射線影響	⑤ 教育訓練
評価	○	△	◎	◎	△

寸評：日本の放射線疫学研究を総括してこられた大家による，原爆被爆者とチェルノブイリ被災者における放射線影響研究の解説。分かったことと分かっていないこと，そして疫学調査の限界と問題点と課題が明確に述べられている。この本を読まずして，放射線影響疫学データを軽々しく語るべからず。(N.M.)

主任者 コーナー

「放射線は本当に微量でも危険なのか？—直線しきい値なし（LNT）仮説について考える」 著者：佐渡敏彦 医療科学社 2012年4月23日初版

A4判・250頁・3,465円（税込）

対象	① 専門家向け	② 一般向け	③ 科学的	④ 放射線影響	⑤ 教育訓練
評価	◎	○	◎	◎	○

寸評：原発事故以来、多くの放射線関連の書物が店頭に並んでいる。そんな状況の中、私が出会った書物の中で最もボリュームがあり、著者自らの考えも披露しつつも、学術的な知見を持って真摯に科学と向き合う著者の姿勢に感銘を受けた1冊である。章の冒頭に引用されている科学者の言葉は感慨深い。(K.O.)

「低線量被曝のモラル」 著者：一ノ瀬正樹ほか 河出書房新社 2012年2月18日初版

四六判・354頁・3,360円（税込）

対象	① 専門家向け	② 一般向け	③ 科学的	④ 放射線影響	⑤ 教育訓練
評価	△	△	○	○	—

寸評：東京大学の教授、准教授が今回の原発事故についてそれぞれの分野から意見を述べたもの。ただし、理系だけでなく、言語メディア論や宗教学等の専攻者もあり、勉強不足には荷が重い。各著者の話題は1冊としてはまとまりには欠けるが、学問として原発後の事象に興味がある方には面白いのかもしれない。討論部分も東大の先生方の話し合いは、いつしかある種の形而上学的な雰囲気帯びるのが興味深い。(Y.Y.)

「世界一わかりやすい放射能の本当の話 完全対策編」 著者：青山智樹ほか 宝島社 2011年6月25日初版

A5判・95頁・500円（税込）

対象	① 専門家向け	② 一般向け	③ 科学的	④ 放射線影響	⑤ 教育訓練
評価	△	◎	△	○	○

寸評：原発事故で拡散した放射能から身を守る術について分かりやすく記述されている。前著と同様に、科学的根拠がなく記載されている部分も少し見受けられる。(S.H.)

「リスクの社会心理学」 編者：中谷内一也 有斐閣 2012年7月14日初版

A5判・287頁・3,150円(税込)

対象	① 専門家向け	② 一般向け	③ 科学的	④ 放射線影響	⑤ 教育訓練
評価	◎	◎	◎	△	◎
<p>寸評：我々が日常生活で意思決定する際に、知らず知らずのうちに影響される心理的要因を詳しく解説したもの。難しい用語とともに説明されているが、誰もが日常的に経験済みのことが多く、放射線リスクコミュニケーションにも大いに役立つ。思わず心理学を探究したくなる実に面白い1冊。(A.K.)</p>					
対象	① 専門家向け	② 一般向け	③ 科学的	④ 放射線影響	⑤ 教育訓練
評価	◎	○	○	△	△
<p>寸評：世の中のリスクにどのように対するかを啓蒙する書である。リスク認知とリスク・マネジメントについて最新の社会心理学の知見にも触れながらも分かりやすくまとめられている。本書は、東日本大震災と向き合った、編者の心理学者としての覚悟と熱い思いが溢れる渾身の一編である。(Y.I.)</p>					

「リスクのモノサシ(安全・安心生活はありうるか)」 著者：中谷内一也 NHK ブックス 2006年7月1日初版

四六判・251頁・1,019円(税込)

対象	① 専門家向け	② 一般向け	③ 科学的	④ 放射線影響	⑤ 教育訓練
評価	○	○	○	△	△
<p>寸評：読みやすそうに見えるが、実は自然科学領域と同様にリスク認知学もまた進化する学問であることを実感させられる硬派。前著となる「環境リスク心理学」では「信頼」が最終的なキーワードに見えたが、今著では「主要価値類似性」の現代社会へのフィッティングが示される。福島以降では更に新たなパラダイムの予感を感じさせる。(N.M.)</p>					

「放射線入門」 著者：鶴田隆雄 通商産業研究社 2008年2月1日第2版

A5判・159頁・1,680円(税込)

対象	① 専門家向け	② 一般向け	③ 科学的	④ 放射線影響	⑤ 教育訓練
評価	△	◎	◎	○	◎
<p>寸評：放射線の基礎を勉強したい一般の方、放射線を始めて取り扱う学生向け。教科書的に演習問題があるが随所にイラストがあって読みやすい。理解に必要な数学、物理学の解説がある。(Y.U.)</p>					

主任者 コーナー

「放射線・放射能がよくわかる本」 著者：多田順一郎 オーム社 2011年7月10日初版
四六判・176頁・1,575円（税込）

対象	① 専門家向け	② 一般向け	③ 科学的	④ 放射線影響	⑤ 教育訓練
評価	○	○	◎	◎	○

寸評：東電原発事故後に出版された、放射線や放射能とはどういったものかを基礎から解説した1冊。放射線に関するトピックも紹介されている。多岐にわたる分野で解説されているが、前半は特に物理の比重が大きい。一般の方が抱く放射線のイメージに沿った、親近感が持てる内容になっている。(A.S.)

「私たちは、なぜ放射線の話をするのか」 著者：木元教子 ワック 2008年8月1日初版
新書判・133頁・500円（税込）

対象	① 専門家向け	② 一般向け	③ 科学的	④ 放射線影響	⑤ 教育訓練
評価	—	△	△	—	—

寸評：むやみに放射線を怖がる一般人を啓蒙する本。原子力平和利用推進派である木元教子、碧海酉癸、東嶋和子3氏の座談会の会話をまとめた型式。「エネルギー危機や戦争のリスクに比べて放射線や原子力事故のリスクは非常に小さいから、私は原子力を選びます。」「放射線のリスクはコントロールできるんですよ。」福島第一原発事故以降、この類いの本が果たして一般人にどれぐらいの説得力を持つだろうか。(H.Y.)

「放射線ものがたり」 著者：森内和之 裳華房 1996年10月1日初版
四六判・216頁・1,575円（税込）

対象	① 専門家向け	② 一般向け	③ 科学的	④ 放射線影響	⑤ 教育訓練
評価	◎	△	◎	△	△

寸評：放射線という物自体の話、要は物理学的な話題が中心である。放射線物理学をより理解しようとされる主任者には最適。(Y.Y.)

〔書評者一覧（50音順）〕

池本祐志, 上養義朋, 小野孝二, 川辺睦, 鈴木朗史, 桧垣正吾, 松田尚樹, 宮本昌明, 矢鋪祐司, 吉田浩子